

10人の議員が市政を問う 一般質問

- 1 菊池 勝秀 「ふるさとUターン移住者に対するお祝金の支給を」…P12
- 2 園田 浩文 「中九州横断道路開通後の観光・農業・まちづくりへの影響は」…P13
- 3 大倉 幸也 「阿蘇市周辺のメガソーラーの実態は」…P13
- 4 古木 孝宏 「中九州横断道路整備、河川及び市道管理、老人会について問う」…P14
- 5 五嶋 義行 「田んぼダムを活用した水害対策を」…P14
- 6 杉谷 保信 「民間フリースクールへの支援は」…P15
- 7 甲斐純一郎 「阿蘇市の経済発展と水保全の関係性を問う」…P15
- 8 竹原 祐一 「高齢者の認知症対策を」…P16
- 9 佐藤 菊男 「持続可能な農村環境の維持は」…P16
- 10 中川 文久 「『子ども医療費』市外窓口無料化は」…P17

ふるさとUターン移住者に対するお祝金の支給を



菊池 勝秀

菊池 本市の人口が、ここ3年間に1056人、毎年352人も減少している。移住者を増やす本市独自の支援金等はないのか。

石松まちづくり課長

空き家バンク登録物件を購入した県外移住者にリフォーム費用等の補助があります。

菊池 都城市で、市外からの移住者に最大で500万円の給付金を支給し、前年度比1400人の人口増となった。本市も、例えば両親等を思いUターンする移住者に単身者10万円、世帯20万円等のお祝金を出すなど、今、将来に向け思い切った政策を打ち出すべきと思うが。ちなみに昨年末公表の2050年将来推計人口で、本市は「更に二万人減少」である。

佐藤市長 Uターン者だけでなく広く受入れる体制が大事です。ご意見も参考にさせていただきながら本年設置の移住定住支援センターで検討を進めます。

阿蘇登山道路の渋滞緩和に向けて
菊池 毎年、お盆時期を含め、阿

蘇登山道路（阿蘇パノラマライン）は慢性的に渋滞している。原因と今後の緩和予定は。

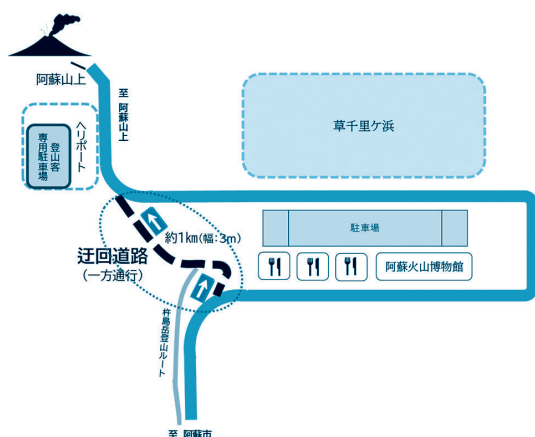
秦観光課長

旅の形態が団体から個人旅行へと変わったほか、登山シーズンで登山客の車で草千里駐車場の駐車スペースが不足することが要因です。バスの駐車線を引き直し普通車の駐車台数を増やす対策を予定しています。

菊池

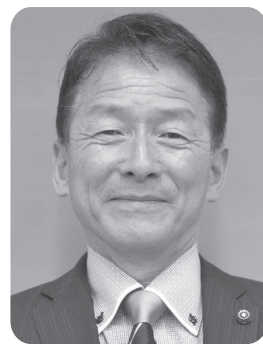
山上に直接行く人が必ず草千里を通るのも要因。草千里を経由しない迂回路のほか、ヘリポート（旧スキー場）を登山客専用の駐車場に整備し、上りの渋滞を緩和してはどうか。

荒木経済部長 県とも様々な視点から、緩和に向け検討していきます。



草千里を経由しない阿蘇山上までの迂回路イメージ

中九州横断道路開通後の 観光・農業・まちづくりへの影響は



園田 浩文

ならないと思っています。

園田 阿蘇谷の計画路線や、インターチェンジの選定については、期成会を通じて国へ市の要望を強く伝えて頂きたいが。市長の見解は。

佐藤市長 現在の状態では通過点になり得る可能性があることから一番心配している所です。開通までの間に阿蘇郡市の連携のもと、意識を高くあらゆる業界の方々に要望を伝えて、道路作りと同時並行でやっていかないと間に合わないのではという思いです。これから一生涯懸命取り組んでいきます。

他に「森林環境税」「水資源の保全」について質問がありました。



大倉 幸也

大倉 近年、阿蘇地域周辺で大規模なメガソーラー発電施設が目立っている。国は再生可能エネルギーの普及を推進しているが、森林を伐採して造成し、草地を覆いつくした太陽光パネルを見ると何か矛盾を感じる。阿蘇地域のメガソーラーの状況と設置に関する市の対応は。

村上住環境課長 千キロワット以上の発電施設については、阿蘇郡市で31箇所、その内、本市には7箇所あり、設置には、自然公園法や森林法等による認可が必要となります。

市では、景観条例や再生可能エネルギー発電設備の設置及び管理に関する指導要綱に基づき、千平方メートルを超える太陽光発電施設等の設置者に対して、市との事前協議と地元説明会の実施を求めています。

大倉 ユーチューブ等を見ると阿蘇地域のメガソーラー発電施設の問題を指摘した動画が多数配信されている。いかにも阿蘇くじゅう国立公園内に設置されているかのような内容で規制等が必要と感ずる。観光



中九州横断道路の路線図



阿蘇地域のメガソーラー

他に「阿蘇市のふるさと納税の状況」について質問がありました。

や世界遺産登録に向けた取り組みへの影響は。

秦観光課長 動画は広く拡散されており風評が懸念されますが、現在のところ観光への影響はないようです。今後も注視していきたいと思えます。

佐藤市長 環境・文化を守りながら登録に向けた取り組みを進めるためには、県が条例等により、世界文化遺産を目指す重要な地域として阿蘇を位置付ける必要があります。県も曖昧な対応ではなく歩調を合わせていただきたいと思っています。

阿蘇市周辺のメガソーラーの実態は

中九州横断道路整備、 河川及び市道管理、 老人会について問う



古木 孝宏

古木 滝室坂道路と滝室坂から二重の峠間の進捗状況は

鎌倉建設課長

滝室坂道路は、現在トンネル内のコンクリート吹付工事が95パーセント完了しており、今後は、電気・消火設備等の工事に移ります。トンネルを出た前後の道路整備も行われており、供用開始は令和8年度中と国から発表されています。

佐藤市長

滝室坂から二重の峠間については、路線の早期指定を期成会で要望をしておりますので、方向性を早期に示すよう国に求めています。

河川及び市道管理について

古木

河川管理として、坂梨地区八反田川の土砂等堆積物の撤去を早急に進めるべきでは。

建設課長

本年度中に実施します。

古木

以前にも市道の安全管理について質問したが、道路にかかる木の枝や繁茂する雑草でカーブミラーが見えにくいなど危険箇所が見受けられる。管理の状況は。

建設課長

原則、所有者による管



河川の堆積物



堆積物が撤去された河川

理ではありませんが、緊急性がある場合には建設課で対応しています。

古木

緊急性と言うが、毎日通っている生活道路に何箇所も危険箇所が見られる。そういった危険箇所を区長さんに連絡いただくなど協力をいただき、安全に通行できるように管理してもらいたい。

中本土木部長

できるだけ地権者に管理していただくよう理解を求めて行きます。

老人会について

古木

老人会は様々な活動をされているが、加入者の減少について悩みも多いと聞く。60歳や65歳からが老人会というのも要因と思うが、会員増に向けて名称変更を検討してはどうか。

宮崎市民部長

老人クラブ連合会の役員会にお話をさせていただきたいと思っています。

田んぼダムを活用した水害対策を



五嶋 義行

五嶋

市の水田面積は、市内遊水地5箇所分の貯水力に匹敵すると思うが、田んぼダムに積極的に取組まない理由は。

佐伯農政課長

田んぼダムは、水田の排水桝に流出量を抑制するための堰板（せきいた）を取付けて、水田に溜まった雨水を時間をかけて排水するものです。河川の水位上昇を抑え、氾濫を抑制する効果があることから、現在、全国の8万7千haで実施されており、国は令和17年までに約10万haまで拡大する予定です。熊本県では、人吉・球磨地域の617haで実施されています。本市では基盤整備を行う黒川地区の16haに加え、更新基盤整備に伴う排水路改修を実施した一部の圃場整備工区においては、雨水貯留機能向上に必要な整備が行われておりますが、一定規模の取組に至らない状況です。

五嶋

農家にとっては田んぼダムに対するメリットがないため、普及のための補助金創設等、取組みへの支援が必要と考えるが。

農政課長

農地耕作条件整備事業によるハード事業といった国支援メニューもありますが、本市は4千haもの水田を有しているため、これらの事業を効果的に活用するなど地域の合意形成や農家のメリットを見出していくことが先ずは必要であると考えています。

学校給食の無償化について

五嶋

学校給食の無償化は、全国の自治体の3割、一部条件付きでの実施を含めると4割の自治体が取組んでいる。本市の方向性は。

松岡教育課長

国による無償化の動きがあることから、少子化対策と含めて国の施策を期待しているところです。

他に「狩尾幹線の復旧見通し」「オーバーツーリズムの対策」「公共施設の喫煙対策」について質問がありました。



阿蘇の農地

民間フリースクールへの支援は



杉谷 保信

民間フリースクールへの補助等は考えておりません。フリースクールに限らず、子供たちのこれからにとって何が必要かを常に考えていきたいと思っています。

他に「指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）」「河川等の環境保全」について質問がありました。

阿蘇市の経済発展と水保全の関係性を問う



甲斐 純一郎

甲斐 TSMC進出に伴う水保全問題は近い将来、市の第一次産業の活性化・他産業への経済波及効果に直結すると考えるが、推進本部の見解は。

廣瀬企画財政課長 地下水をはじめ本市の大切な自然環境や景観を守りながら、地域経済の活性化に結びつけるよう各課連携を取っていきます。

甲斐 阿蘇の地下水は、これまでの学説では熊本都市圏へ流れていないとの見解であったが、立野外牧地区でボーリング調査を実施し「1日4万トン・年間1500万トン」が流下しているとの調査結果が出ている。担当課長はご承知か。

村上住環境課長 熊本地震で大きな被害を受けた阿蘇をモデルに、環境省の調査研究のひとつとして東海大学市川教授をリーダーとした研究があり、その成果及び数値について確認しています。今後さらに科学的根拠が得られるような取組みを考えてまいります。

甲斐 「田んぼダム」は水田を中

心とした優良農地が防災減災のほか地下水涵養に重要な役割を果たしている。よって、阿蘇の農家が負担する農事用電気料一億円などの負担軽減を図るため、地下水を中心とした水循環機能に関する調査研究を進めたらどうか。

佐伯農政課長 下流域に対する情報発信も含め、水源涵養機能を目的とした取組みは必要であると考えます。

甲斐 農業団体と連携のもと、この途の権威ある東海大学市川教授をお招きして、地下水保全に関する勉強会を計画している。市長の見解を。 **佐藤市長** これからも、そに向かつて皆さん方と想いを共有して行くことが大事であると考えます。



阿蘇の草原と農地



学校の授業風景

杉谷 不登校となっている児童生徒数は。
松岡教育課長 令和5年度末の不登校者は57名、不登校傾向者は20名です。本年5月時点では、不登校者が10名、不登校傾向者が17名です。
杉谷 支援を必要とする子どもたちへの対応は。
教育課長 市では、児童生徒の学習の場や社会・学校・知人とのつながりを大事にするため「ほっとスクールASO」を開設し、直営にて運営しています。施設には、教諭・養護教諭などの有資格者を配置し子ども達の居場所づくりや日々の心の動きなどを把握しつつ、義務教育課程の修了を目指しサポートをしています。利用料は無料です。
杉谷 民間のフリースクールを利用した場合、かなりの費用負担が発生する。補助金等による市独自の支援は検討できないか。
教育課長 今後については、全ては子どものためという視点で慎重に見極めたいと考えますが、現状では

高齢者の認知症対策を

持続可能な農村環境の維持は



竹原 祐一

竹原 市が把握している認知症と軽度認知障害の患者数は。

山内健康増進課長 認知症患者は令和4年度後期高齢者医療のレセプト情報によると、全体の15・5% 859人になります。軽度認知障害については把握が難しい状況です。

竹原 早期に認知症患者を把握し対応するための施策は。

小山ほけん課長 認知症に関しては、患者本人が症状を自覚することが難しい場合もあり、医療に繋がりにくい現状があります。このため認知症への理解を深め早期の対応ができるよう「認知症サポーター講座」を実施しています。これまで市民の約46パーセントが受講するなど関心も高いことから、取組みを継続する中で、早期の対応が予防に繋がりを周知していきたいと考えています。

竹原 認知症及び軽度認知障害の方を医療機関へ結び付ける事が重要と考える。

携が進められると思うが、今後の介護保険料への影響は。

ほけん課長 認知症に関しては本市の問題だけでなく、全国的な問題と捉えています。ニーズの把握を行いながら、介護保険計画を3年毎に的確に見直し、適切に介護保険事業を進めていきます。



認知症サポーター講座

佐藤 人口減少と高齢化に伴う除草作業や美化作業など、今後の道路環境維持の方針は。

中本土木部長 市道の全路線を全て市が管理するのは難しいため、優先順位を付けたり、恒久的な雑草への対策について、今後研究していくのが今の段階です。

荒木経済部長 農道・林道ともに多くの路線があるため、建設課とも協議し、最適な維持作業計画を模索していきたいと思っています。

佐藤 市民の方が安心して暮らせる環境の確保のため、住民の意見住民目線を大事にし、問題に直面してからではなく、事前に想定をし、将来を見据えた計画と実行の展開を期待したいが。

和田副市長 スマート農業の進展による自動化も進んでいるので草刈りロボットや大型機械の活用を検討するとともに、先手先手で考えることを念頭に、早め早めの対応に努めていきます。



佐藤 菊男

轟大橋の通行規制について
佐藤 県道41号主要地方道高森波野線の波野支所近くの轟大橋が令和4年11月末から重量制限による通行規制が現在も続き、地域の経済活動に支障が出ている。

規制の事前通告もその理由も規制期間の周知も全くないことから、熊本県へ情報提供を行うよう建設課に何回も依頼したが、熊本県からは現在まで何の情報提供もないが。

中本土木部長 補修には今から2年ほどかかることから、阿蘇地域振興局土木部が、6月末までに波野地区全戸に補修内容と規制の期間などを周知するチラシを配布することを約束しています。



道路の除草作業（波野地区）

「子ども医療費」市外窓口無料化は



中川 文久

中川 阿蘇市内と市外では治療費の窓口支払いで違いがあるが。

森永福祉課長 阿蘇市内では令和2年度から外来での窓口無料化を実施しています。阿蘇市外では医療費を一旦お支払い頂き領収書を添付して市に申請し、払い戻される償還払いになっています。

中川 阿蘇市内と市外での申請件数は。

福祉課長 令和5年度は、阿蘇市内で3万1319件、入院及び市外通院の償還払いで1万5810件です。

中川 市外件数もかなりあるが保護者からは、市外でないと治療できないケースや、緊急で夜間に市外の医療機関に行くケースなどは、現金支払いが必要になる。また、手続きは書類を集めて平日に市役所を持って行かなければならないという手間を考えると、阿蘇市内と同じ対応ができないかとの声があるが。

福祉課長 市外での窓口無料化はこれまで多くの保護者の方々からご意見、ご要望をいただいていた

ので、市外での窓口無料化について来年1月からの開始を目標に準備を進めています。

新しいハザードマップの作成について

中川 ハザードマップ作成の進捗状況は。

市原防災情報課長 現在発注の準備を進めています。ハザードマップに掲載します土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）、土砂災害警戒区域（イエローゾーン）について熊本県が変更手続きをされており、最新の情報となるよう県と同時並行で作成作業を進めていきます。

0歳から18歳まで 阿蘇市外も子ども医療費窓口無料化へ

病院の会計で、子ども医療費受給者証と保険証を出すだけ



／ 傍聴してみませんか /



阿蘇市議会 次回開催予定



定例会	会期日程	一般質問
令和6年 第5回 (9月)	8月30日(金) ～ 9月20日(金)	9月18日(水) 19日(木)

※正式な日程は、議会運営委員会で最終決定となりますので、お知らせ端末やホームページで改めてお知らせします。場合によっては、日程の変更や傍聴を制限することがあります。